

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

61

発行日：令和元年 5月15日(水)
(2019年)

地域企業紹介 その 61

株式会社メディアプラス

魅力ある会社づくりで 事業拡充を目指す!!

各種ソフトウェアの構築・運用を主な事業としている株式会社メディアプラスの金沢勇社長を相模原市中央区千代田の本社に訪ねました。

新潟県長岡市出身である金沢社長は、同県の地方新聞社に勤務していた父親の転勤に伴い、小学生時代は上越市へ、中学生から高校生時代は新潟市へと同県内を転々とする。近くには川や山、田んぼなどが広がる自然に恵まれた場所だ。そんな風光明媚なところで、勇少年はよく川でフナ釣りをして遊んだそう。高校生時代には軽音楽サークルでハードロックに熱中し、曲のボトムを支えリズムを生み出すベースギターを担当。同時にコンピュータ部にも所属するなど、この頃からシステムエンジニアとしての資質や片鱗を窺わせるようになる。高校卒業後は、横浜国立大学理工学部電気情報科に入学し、神奈川県横浜市内で下宿生活を始める。この頃、自動車のメカにハマり、部品購入やラリーに必要な資金調達のため、大学にはほとんど行かず、学習塾で数学の講師のアルバイトに明け暮れる日々を過ごす。その当時、塾生の成績管理用のプログラムをサクサクと構築したことが思い出に残っていると当時を振り返る。その結果、同大学には5年間通ったものの残念ながら卒業をあきらめ就職することにしたそう。就職活動では、コンピュータ用のマルチタスク・マルチユーザーのオペレーティングシステムの一つであるUNIX(ユニックス)を使ってみたかったことから、それを保有していた相模大野にあるソフト会社に入社、およそ3年間勤務したなかで、ソフトウェア開発設計に関する一通りの知識やスキルを身に着けた。ちなみに、初期のUNIXはアセンブリ言語のみで開発されたが、1973年にはほぼ全体をC言語^{*1}で書き直したため、歴史上はじめて高水準言語で書かれたOS(オペレーティング・システム)であるといわれ、価格も当時は数百万円もする高価なものだったそう。ソフト会社退職後は、フリーでWindowsをベースにコンピュータグラフィック等いくつかの受託業務を手掛けていたが、さらに尖ったものを作りたいという思いから、平成5年(1993年)11月に大学時代の友人と共に相模原市中央区富士見にて株式会社メディアプラスを設立させた。

代表取締役 金沢 勇 (かなざわ いさむ)

所在地：相模原市中央区千代田 7-6-11

従業員数：7名

資本金：1千万円

事業内容：ソフトウェアの受託開発およびソフトウェア技術者派遣、ファームウェアから CG、C/S システムまで様々なシステムの開発に対応、EC サイトの構築・運用 (EC-Cube 開発実績あり)

URL: <http://www.media-plus.co.jp/>

法人設立以来、組み込みソフト、デバイスドライバから各種計測・制御システム開発、3次元CADや画像解析などの応用アプリ、Webベースの業務システムなど様々なソフトウェア開発にワンストップで対応しているのが同社の特徴だ。現在、①3次元CADシステム関連 ②教育(教科書・eラーニング)システム関連 ③メーカーシステムの3つを事業の柱として、その受託割合はそれぞれ30%程度、中小企業から中堅・大手まで幅広い取引先を持つ。景気にあまり左右されない教育関連事業を手掛けていることで安定した売上の確保を実現。今年で業歴26年目となる同社は、初年度こそ赤字を計上したが、以後、毎期着実に黒字を積み上げてきている。もともとデバイスドライバ(ハードウェアを制御する)などWindowsの設計開発を得意としており、システム開発に欠かせないソフトウェアの知識はもちろん、ハードウェアやOSに加え、VR(バーチャル・リアリティ)・通信などの周辺分野に関する専門知識にも長けている。まさに、システム開発の豊富な知識と技術力が同社の大きな強みと言えるだろう。

現在同社は、こうした強みを生かせるロボット関連事業のさらなる拡充を目指し、大きな成長が見込まれる産業用ロボット事業分野にチェレンジしている。特に三次元力覚デバイス(ハプティクスデバイス)を使用して、ロボットアームを高い精度で遠隔操作、記録、再生するためのシステム分野に積極的に取り組んでいる。実際の手作業と同様の感覚でロボットを操り、一度した操作は何度でも再生できるため、特別な知識や技術の習得なしに手軽にロボットを活用することができる。ビジョンに頼らず遠隔制御の要素技術である力制御を使用することで、他社ではできないと言われた案件でも対応可能となるケースがあるという。技術

開発スパンがどんどん短くなってきている今、これからは何といっても「スピード」が大事。そのために必要不可欠な“技術力ある社員”も揃っており、常に「スピード感」を持って仕事に取り組んでいきたいと語る金沢社長。

そんな金沢社長は、2017年度より相模原市・相模原商工会議所が推進する「さがみはらロボットビジネス協議会」の二代目会長を務めている。同協議会は2014年、中小企業のロボット市場へのビジネス参入を目的に設立された。相模原市はもともと「内陸工業都市」として長い間積み重ねてきた確かな技術を持つ企業が多く集積する地域であり、モノづくりという観点から、ロボットビジネスを通じた社会への新たな価値創造を目指し活動している。自社の利益・発展だけでなくとどまらず、地域経済の発展に尽力している金沢社長だ。

ちなみに、日頃からあまり運動をしてこなかったという金沢社長は、今年1月から週に2〜3度のペースでゴルフの練習をはじめたそう。練習開始後は、お酒を飲む機会も減り、約4か月で体重4kg減、ウエスト4cm減と健康管理はもちろんダイエットにも繋がったとのこと。そんな金沢社長は、今後、社員数を増し、事業の拡大充実を図るため、今よりも、もっともっと“魅力ある会社”にしていきたいと意欲を燃やす。常に新しい分野にチャレンジし、不可能を可能にするための努力を惜しまない「メディアプラス」。また、新たなステージを迎えようとしている同社のさらなる挑戦に期待しています。

※1 C言語(シーげんご、C language)とは、コンピュータのソフトウェアをつくる際に使用されるプログラミング言語の一種。

「新たな映像技術で世界を変える！」

IGNITE 株式会社



プロジェクション型映像機器の基幹部品となる独自のMEMSデジタル・マイクロミラーの開発を行なっているIGNITE株式会社の鳥飼俊敬取締役役にお話を伺いました。鳥飼さんは「相模原ラボ」の責任者として、MEMS(マイクロマシン)半導体技術、およびその製品開発を行なっています。

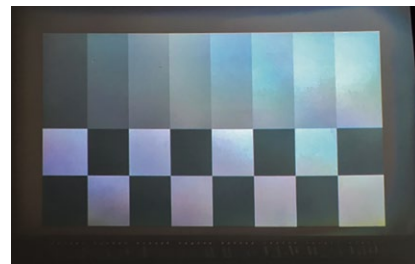
同社は、米国ピッツバーグに本社を置くIron City Micro Display, Inc.の現地法人として2017年10月に設立しました。本社は都内にあり、本格的な研究開発が進む中で、設計や試作品の評価をするための作業環境が必要となり、交通アクセスの良さもあってSICに入居されました。

開発中のMEMSデジタル・マイクロミラーの基礎となる研究は、Iron City Micro Display, Inc.で行ったもので、その基礎研究を活かし、日本国内でもその実用化に向けて製品開発を推進しています。

新たな映像技術として期待されているプロジェクション技術は、映像で新しいライフスタイルの創造を実現させます。たとえば、車載関連では、ヘッドライトが単なる光の投影ではなく、歩行者や対向車など周囲に安全喚起を促す“路面描写機能”を持つスマートヘッドライトの実現に向けて開発が進んでいます。

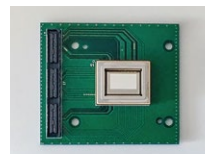
また、壁などに映像が現れるプロジェクション型ディスプレイ、いわゆるデジタルウォールはこれからの生活の中で当たり前になるかもしれません。その他にもデジタルサイネージなどでもプロジェクション技術の応用が期待され、そのコア技術の確立のため、IGNITE社は研究開発を進めています。

鳥飼さんは、「今後の目標として、まずは現在取り掛かっている研究開発を成功させなければなりません。かつてエレクトロニクス業界における日本の



開発中のプロジェクション型ディスプレイ技術

技術力は世界を凌駕(りょうが)しましたが、昨今、液晶テレビや有機ELなどは海外勢に押されています。そのような中、『新たな映像技術で世界を変え、日本のエレクトロニクス産業をはじめとするものづくり業界を活性化させる一翼を担いたい』と話されました。



基幹部品となる MEMS デジタル・マイクロミラー

IGNITE 株式会社 相模原ラボ
SIC1-323号室
E-mail: toshi@ignite-japan.com
WEB: <https://www.ignite-japan.com>

優れた 事業構想とはどのようなものか？

「企業をサポートし隊」専門家編

2002年6月から始まった『SIC経営塾』は、今年3月に『第17期SIC経営塾』を終えました。『SIC経営塾』では、経営の理論を学ぶだけではなく、自社の経営の実践に活かすことを第一義としているため、最終回では、多くのコメンテーターの前で自社の事業構想を発表していただいています。

そこで、過去の『SIC経営塾』を通して、150件を超える事業構想を拝見させていただいた経験から、優れた事業構想の条件について述べてみたいと

1. ストーリーとして語られている

優れた戦略について、楠木建氏は著書で、「戦略を構成する要素がかみあって、全体としてゴールに向かって動いていくイメージが動画のように見えてくる」と述べています。

面白い小説は、そのストーリー展開に読者がワクワクするように引き込まれていくものです。同様に事業構想も、社員を含めた関係者の心を突き動かすものでなければ実行につながりません。従って、事業全体を俯瞰的に捉え、自社の現状から将来の姿までの道程を時間軸に沿ってどのように歩んでいくのか、といったストーリーの有無が問われます。

2. エビデンスに裏付けされている

事業構想のストーリーは、単なる夢物語であってはなりません。実行につなげるためには、リアリティが必要です。そのためには、ストーリーを構成する各要素において、出来るだけエビデンスを用意することです。エビデンスの例としては、過去の実績・導入事例、権威者の評価、科学的根拠、顧客の声、統計調査などがあげられます。

従って、事業構想は、社内外のデータ収集、あるいは現場での観察、実験、仮説検証などから定量的事実・定性的事実を積み重ねて、物事を考え、議論して構築されたものでなければなりません。

3. オリジナリティにこだわっている

極端に言えば、自社の事業構想の名前を同業者に変えても、違和感を覚えないような事業構想は、差別化、独自化が考え抜かれていないと言わざるを得ません。

戦略のエッセンスは、他社と違うことを行うこと、あるいは同様の活動を他社とは異なる方法で行うことです。すなわち、戦略とは、唯一無二の存在になるために、自らの経営行動の力点、優先順位を決めることであり、徹底的に、“〇〇らしさ”を突き詰めたものでなければなりません。

思います。尚、“優れた”事業構想とは、戦略の構成要素がロジカルに整理され、形式的にもプレゼン資料がビジュアルに表現された、いわゆる“格好いい”ものを指していません。たとえ、“不格好”であっても、「自社の存在意義(目的)」に基づいて実行して成果を出すことにつながっているものを“優れた”事業構想と位置づけて考えていきます。

4. トレードオンの関係を成立させている

事業活動は、経済性と社会性を両立させるために、様々なステークホルダーとの協働が必要になりますが、必ずしも各ステークホルダーの利害関係は一致するとは限りません。実際、品質とコスト、機能性とデザイン、顧客満足と利益、配当と内部留保など、限られたリソースの中で、トレードオフの選択を迫られる意思決定は悩ましいものです。

しかし、果たして本当に両立し得ないものか、と問い直すことが必要です。そもそも、誰かを犠牲にしてしまうような事業構想では、持続性のある経営は実現できません。一見トレードオフと考えられる関係を短期、中長期といった時間軸の視点から考え抜くことで、トレードオフの関係を解消してトレードオンの関係を成立させる試みがイノベーションの創出につながるからです。

5. 主語で語られている

仕事や組織に対する愛着の程度や心理的距離であるコミットメントは、組織のパフォーマンスに大きな影響を与えます。従って、事業構想は、“やらせ、やらされ”ではなく、“やりたい”という強い動機を醸成するものでなければなりません。事業構想を自分事として、「我が社は」「私は」といった主語で語り、実行に対する責任を持てるようになっていくことが重要です。

流行のキーワードをちりばめたような無味乾燥なフレーズを並べたり、単に目標を羅列したりしたもので、社員をはじめとした協力者の理解と共感を得ることは出来ません。そのためには、数値や理屈ではなく、社員の気持ちや組織風土にも十分配慮したものでなければなりません。

環境という風向きは、自らの力では、なかなか変えることが出来ません。しかし、帆の張り方は自らの力で変えることが出来るはずです。

今年6月から第18期のSIC経営塾が開講します。もしよろしければ、一緒に帆の張り方を考えてみませんか。

出所) 楠木建『ストーリーとしての競争戦略ー優れた戦略の条件』、東洋経済新報社、2010年5月。

和厨房 とも蔵

小田急江ノ島線東林間駅から徒歩1分のところにある、和厨房「とも蔵」を訪問しました。今年でオープンから15年目を迎えるお店のこだわりは、大将の関根さんが独自のルートで仕入れてくる希少な日本酒と、大将の地元藤沢から仕入れてくる相模湾の地魚。

お料理は種類豊富で、今が旬のおススメの焼き筍、常連さんが注文する刺身の盛り合わせ、人気No.1のとり天、自家製もちし豆腐、そしてメにしらす丼をいただきました。

コース料理も用意され、最大20名での宴会も可能です。

気さくな湘南ボーイの大将が営む地域に愛されるお店、これからの季節おいしい冷酒を一杯いかがでしょうか！ ごちそうさまでした。(大谷)

神奈川県相模原市南区上鶴岡7-5-9 Tel. 042-749-6265
営業時間: 月・火・木～土、祝前日: 17:00～23:30、日・祝: 17:00～23:00
定休日: 毎週水曜日/第2火曜日



人気のとり天



自家製 もちし豆腐



地魚のおさしみ



しらす丼



新SIC-2

入居者募集中！

創業から20年、380社の企業にご利用いただいたSICでは、長年の企業支援と施設運営のノウハウをもとに、新たに地上6階、貸室29室を有するSIC-2増築棟の整備を進め、今年9月にオープン予定です。

整備は、既存のSIC-1、SIC-2と一体化し、貸室、商談ブース、リフレッシュスペース、会議室など施設機能を充実させ、SIC-2は、全77室、総貸室面積4,227㎡新しい姿となります。さらに施設機能が充実するSICへのご入居をご検討ください。

充実する施設機能

さがみはらロボット導入支援センター

相模原市が生産性向上に向けたものづくり企業の自動化やロボットシステムインテグレーション育成などを目的に活動しているセンターが、増築棟1階に移転・拡張します。ロボットシステム等の展示や開発、専門家による自動化相談、セミナーなど人材育成、情報発信、ロボット関係入居企業との連携などを通して、ロボットビジネスの拠点を目指します。

コミュニケーションスペース

既存施設との一体化に向け整備する1階には、コミュニケーションスペースを設け、入居者相互の交流、SIC企業支援スタッフとの相談ができます。また、利用用途に合わせた各種商談ブース、大小会議室をご利用できます。

利便性の高いフレキシブルな貸室

新たな貸室29室(各室63㎡)は、利用用途に合わせ、63㎡～315㎡(5部屋相当)まで拡張できます。

室内設備は、天井高4.2㎡(梁下3.65㎡)、床荷重500kg/㎡、単相100V及び三相200Vに対応、給排水2口、マルチエアコンを設置、床はドライからウェットまで対応する機能性塩ビシートを使用しています。

2019.5 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

5月26日(日)	『アントレ・チャレンジ』事前説明会開催
6月 8日(土)	SIC職場リーダー養成塾開塾
6月 9日(日)	『アントレ・チャレンジ』事前説明会開催
6月15日(土)	SIC経営塾開塾
6月22日(土)～10月25日(金)	『アントレ・チャレンジ』プロジェクト
8月 5日(月)～10月18日(金)	ロボットシステムインテグレーション養成講座(全9回)
8月16日(金)～18日(日)	さがみはら子どもアントレプレナー体験キャンプ(2泊3日)
9月14日(土)～12月7日(土)	SICカイゼン・スクール(全7回)

SICのホームページで、工事の進捗状況をご覧ください。

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

編集後記

令和の時代が始まりました。10連休はどのようにお過ごしでしたか。この機会に都会の喧騒から逃れて、山沿いに桜が色を添える山里の新緑の中へ出かけた方々を多く見受けました。某新聞紙上では、人材大手企業が数年後にはロボットの派遣に乗り出すという記事がありました。アナログからデジタルへ変化した平成に続き、古き良きものを残しつつ前向きな革新が進む令和の時代になるといいですね。SICもSIC-2増築棟(仮称)の建設が進み、もうすぐ令和生まれの新SIC-2の姿をご披露いたします。ご期待ください。

入居企業を募集してます。

SIC空室情報(平成31年3月15日現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 空室はありません	-	-
SIC-2 空室はありません	-	-
SIC-2 増築棟(仮称) ○セミラボ(63.18㎡)	14	250,200円
SIC-3 空室はありません	-	-



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>